

しと訓せられたる鬢は小兒の垂髮の事なり、さればうなる小兒のたれ髮の字に鬢鬢と書なり、新撰字鏡
見説文に、鬢髮垂眉也とあれば、目ざしは鬢の字なるべし、和名抄ニ

〔古今和歌集二十〕さがみうた

こよろぎのいそたちならしいそなつむめ。ざしぬらすなおきにをれ浪

〔夫木和歌抄二十五〕題不知

きのくにのなぐさの濱にかひひろふあまのめ。ざしのおとななりせば

〔伊呂波字類抄加〕秃カフロ、領苦

〔倭訓栞前編六〕かぶる 童童、秃秃鬢をいふ、髮振の義なるべし、頭或は山に童カフロといふも、童部の如く

冠せざる意也、倭名抄に秃を訓せり、字書に秃無髮也とも見へたり、

〔貞丈雜記人物〕一髮を短く切りて、結ずして亂し置くを秃カフロと云也、

〔源平盛衰記〕清盛捕化鳥并一族官位昇進附秃童并王莽事

入道ノ世ノ間ハ、聊モ忽緒ニ申者ナカリケリ、其故ハ入道ノ計ヒニテ、十四五若ハ十六七計ナル

童部ノ髮ヲ頸ノ廻ニ切ツ、三百人被召仕ケリ、童ニモアラズ、法師ニモアラズ、コハ何者ノ貌ヤ

ラシ略○中 秃ニ惡シト思ハレタル者ハ、入道殿ニ讒セラレテ、答ナクシテ多ク損ズル者モ有ケリ、

オデノモ、内々ハ、此秃ノ體コソ心得テ、縦京中ノ耳聞ノ爲成トモ、只普通ノ童ニテアレカシ、必

シモ汰ヘラル、事ヨ、又一人モ闕レバ、入立テ、三百人ヲキハメラル、モ不審也、

〔貞丈雜記人物〕一童女の髮をうしろへなでさげ、肩の通りにて一所結を、わらわと云也、これはわ

らはめのすべらかしといふ事也、女房のすべらかしも、わらはのすべらかしも、髮置の記にあり、

〔歴世女裝考三〕振分振分髮

小兒男女とも、三ツより五ツ六ツのほどになりて、髮の毛肩あたりになる、比までをうなる子

秃

童放